

令和元年度 自己評価及び学校関係者評価書

23008 33004

令和2年2月18日

札幌市立福移小中学校

1 本年度の目標

- ・認め合い、支え合う学校 一人一人が輝く学校
- ・ていねいなかわりあい

2 本年度の重点

「小中一貫9年間の学びのプログラム」の構造化を進め、効果的に実践する。

3 自己評価結果

A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校経営の重点	○主体的に学び合う協働体制の確立	A	<p>「主体的な学び」に関する児童生徒への質問『進んで学習に取り組んでいますか。』への肯定的回答は88.5%、保護者への質問『学校は、子どもたちが進んで学ぶ力を身につけるような指導に努めていますか。』への肯定的回答は91.9%であった。</p> <p>また、「学び合う・協働体制」に関する児童生徒への質問『仲間と力を合わせて学習に取り組んでいますか。』への肯定的回答は91.5%、保護者への質問『学校は、子どもたちが仲間と共に学び合えるような授業を工夫したり、学級づくりに努めたりしていますか。』への肯定的回答が97.3%であった。</p> <p>ここからは、少人数制をいかした主体的で対話的な学習活動の取組に対し、児童生徒、保護者とも成果を実感していることがわかる。</p> <p>1 小中合同での研究授業の取組の中で、児童生徒の育てたい力を明確にし、共通認識を深め、授業づくりを行うことができています。</p> <p>2 特別の教科「道徳」において、題材に適した学習形態を工夫し、主体的で対話的な学習の取組を行っている。</p> <p>3 次年度は、小中の教師間の交流の場をさらに増やし、連携を深め、育てたい力をより明確にし、少人数制をいかした9年の連続した学びの形態を共有できるようにしていく。</p> <p>〈次年度へ向け重点的に行いたい取組〉</p> <p>「思ったり感じたり考えたりしたことを表現したり、伝えたりすることができていますか」という質問に対し、全校で25名(19%)の児童生徒から否定的な回答を得ている。昨年度の31名(24%)からは減少しているものの、2割近い生徒が苦手としていることがわかる。また、保護者アンケートの記述から、少人数制であることをいかした活動、主体的に取り組んでいくこと、人前で話すことに慣れることへの更なる期待があることが確認できた。</p> <p>次年度に向け、以下の改善のための視点を確認し取り組んでいくこととする。</p> <p>1 授業に関しては、学習のねらい、学習内容、児童生徒の実態に合わせた課題探究的な活動の形態(ペア、グループ、学級全体など)の工夫を行い、また発表の機会を増やしていく。</p> <p>2 日常生活の中では、児童生徒一人一人、苦手としている要因、場面が異なるため、少人数制をいかし、一人一人に合った、指導、声かけを今後も継続していく。</p>	A	A
	○開かれた学校づくり	A	<p>保護者アンケートにおける「学校は、子どもたちの様子を伝える努力をしている」の質問に対する肯定的回答は97.3%であった。</p> <p>学校の様子を家庭に伝えるためのお便りは、担任が発行する学級通信、学校便りの「やちだも」がある。今後も紙面の充実を目指し様々な視点からお便りを発行していきたい。また、今年度同様に学校のホームページを充実させ、学校の様子を発信していく。</p> <p>今年度も多くの保護者が学校公開日や授業参観に足を運んでくださっている。また、収穫祭やポロカル発信会では、地域の方、調査活動の協力していただいた各事業所の方にも参加していただいた。今後も見て、聞いて、感じてもらえる取組を継続していく。</p>	A	A
	○創造性を発揮し、児童生徒一人一人を大切に育てる教育の実践	A	<p>「あなたにとって学校は、成長を実感できる場所ですか」との質問に、昨年と同様86%の児童生徒から肯定的な回答を得ている。また、「困ったり、悩んだりしたときに、学校は寄り添ってくれる場所ですか」の質問に対しても86%の児童生徒が肯定的に回答しており、昨年度の82%から増加している。</p> <p>今後も、少人数制をいかした個性や特性に応じた教育活動により、児童生徒が個々の能力や適性を伸ばし、自己を表現し、成長を実感することができるような活動を継続していく。</p> <p>また、児童生徒一人一人に対し教師が丁寧に関わり、またその情報を共有し、職員が一丸となって寄り添い支える関係を継続していく。</p>	A	A
学校関係者評価委員による意見	<p>特認校として少人数制をいかした教育活動を行っており、子どもたちの成長につながっている。表現力を高める、というのは難しいことだと思うが、保護者からその力を伸ばしてほしいという期待も大きく、先生方も様々な方法で指導、支援をしているのが有り難い。今後も、たてわりの活動の機会を大切に、小学生にとって良い見本となる中学生、その先輩を見習う小学生を育ててほしい。</p>				